

Armes Prydein について
Armes Prydein
Jiro Yoshioka

吉岡 治郎

この 198 行の詩の写本は、著名な *The Book of Taliesin [Llyfr Taliesin]* に含まれている。この写本の年代は、現在では 14 世紀初頭のものでされている。この写本を出版した Gwenogvryn Evans (1852-1930) が 1275 年とし、ながらくその見解が流布していたので、古い書などでは今なおその年代を記しているものもある（古い書物には、その年代を採用しているものが多い）。W.F. Skene (1809-1892) の *The Four Ancient Books of Wales* (2 vols., 1868) にも収録されている。この本は、AMS Reprints にも含まれており入手が便利になったが、Skene のこの本で与えられている訳は 20 世紀の学問的水準から見れば全く評価することはできないので、使用することは避けるべきである。

この詩の題 *Armes Prydein* については、*GPC* には、*Armes* は *armes*, *arymes*, *ermes* = *prophecy*, *prediction*, *portent*, *omen* 引用初例 ; *Prydein* は

Prydain = (inhabitants of) Britain (sometimes formerly contrasted with England or the English, and sometimes excluding Scotland) とあり、*The Prophecy of Britain* の意味である。

著者については、中世の作品がしばしばそうであるように、「不明」であるが、作品の中に見出される宗教的な言及などから、当時の政治的状況に通じており、学問的伝統を踏まえた南ウェールズの修道士、聖職者であろうかと推測されている。彼は Hywel the Good の臣下であったが、王のサクソン族に対する融和政策に強い反発を表明している。

ウェールズ詩の伝統の一つに Vaticinatory Poems (予言詩) の伝統がある。予言詩は主として政治的なものであり、ウェールズ人とイングランド人、後になればウェールズ人とノルマン人の間の争いについてのものであり、特に Cynan, Cadwaladr, Owain 最後には Arthur などの英雄が復帰して、ウェールズ人を隷従から開放し、イングランド人に復讐をしてくれるという内容になる。これらの詩の内容については、M.F. Griffith の *Early Vaticination in Welsh* (1937) が詳しい。金城学院大学図書館の Ifor Williams Library 「ウィリアムズ文庫」に含まれている。

この詩の制作年代については次のような歴史的事情から推測されている。Wessex の王 Athelston は 926~30 年の頃に、ウェールズの王たちに Hereford で彼に会うことを強要し、服従して貢納することを求めた。これは彼以前の王のなし得なかったことである。南部では、ワイ川 the Wye をウェールズに対する境界として決めた。この詩の内容から判断して、その直後にこの詩は制作されたと考えられている。937 年に the Battle of Brunanburh があり、スカンディナヴィア人、ブリトン人、スコットランド人の軍勢は完敗を喫する。この悲劇的な完敗の後では、ウェールズ人のだれ一人としてこのような詩を制作する勇氣は持ち得なかったであろう。それでこの詩の制作は 937 年より以前に違いないとされている。この見解は Ifor Williams のものであり、ながく支持されていたが、1983 年になり著名なケルト史家 Dumville が、いろいろな資料を分析して、その制作年代をより幅広く 935-950 とする見解を提示した。現在も、見解は二つに分かれたままであり、本報告者は当時のウェールズの歴史、イングランドの歴史に精通していないので、いずれがより妥当であるのかについての判断を下す資格はない。

本詩の 1 行目に dygobryssyn (they will hasten) が出てくるが、この個所では、その they が誰であるかは明らかにされていない。この they に当たる Cynan と Cadwaladyr が初めて姿を現すのは Cadwaladyr (l. 81) Cynan (l. 89) である。この二人の英雄は初期の予言詩に繰り返し姿を現す。Cynan はマ